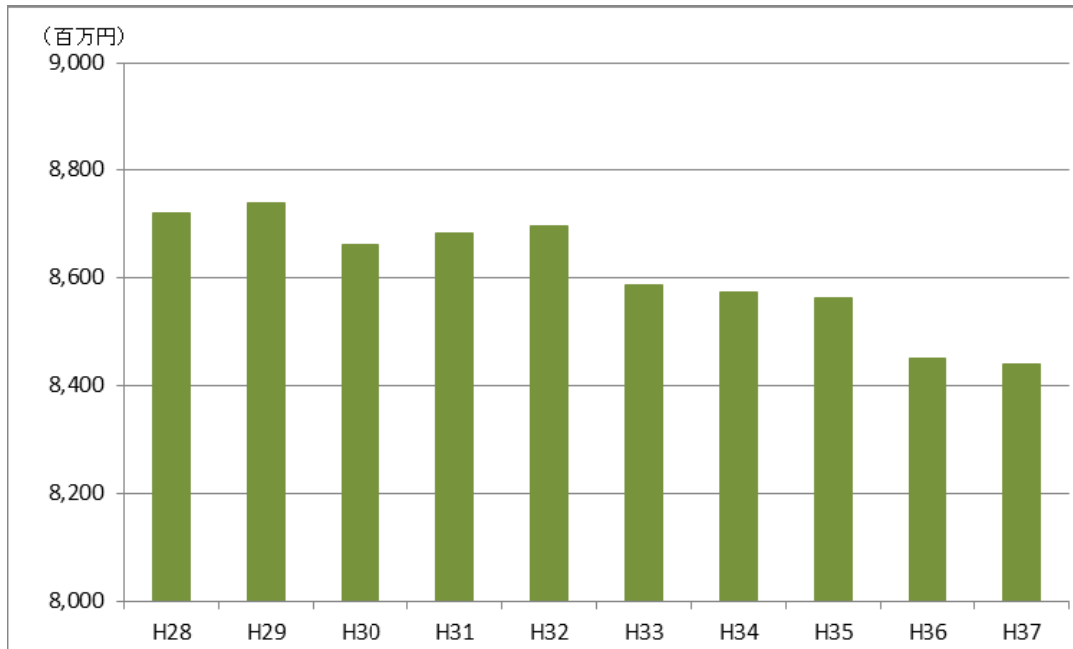


財政の見通し（１） 市税

資料1の補足資料

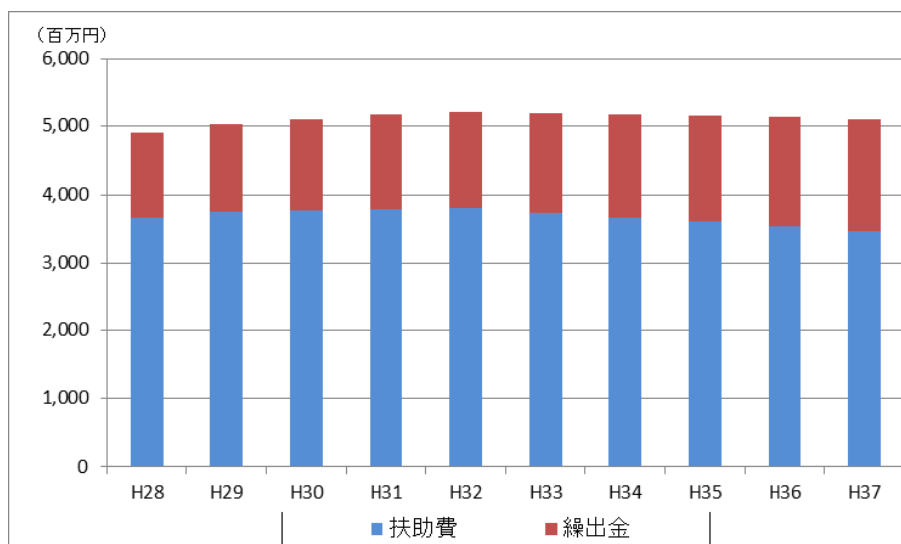
- 市税は平成32年度までは87億円前後で推移しますが、その後減少していく見込みです。



1

財政の見通し（２） 社会保障関係費

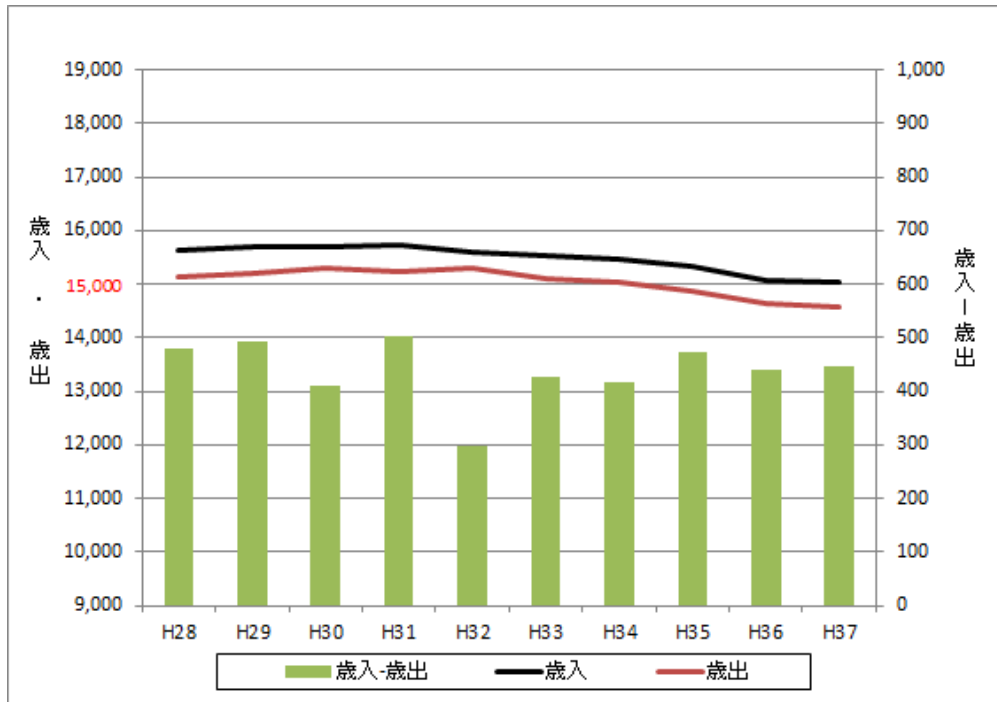
- 扶助費は、子どもや高齢者などを援助するための経費で、減少していく見込みです。
- 繰出金は、介護保険や後期高齢者医療保険に対する負担金などで、増加していく見込みです。
- 扶助費と繰出金の合計は、50億円前後でおおむね横ばいに推移する見込みです。



2

財政の見通し（3） 建設事業を除いた場合

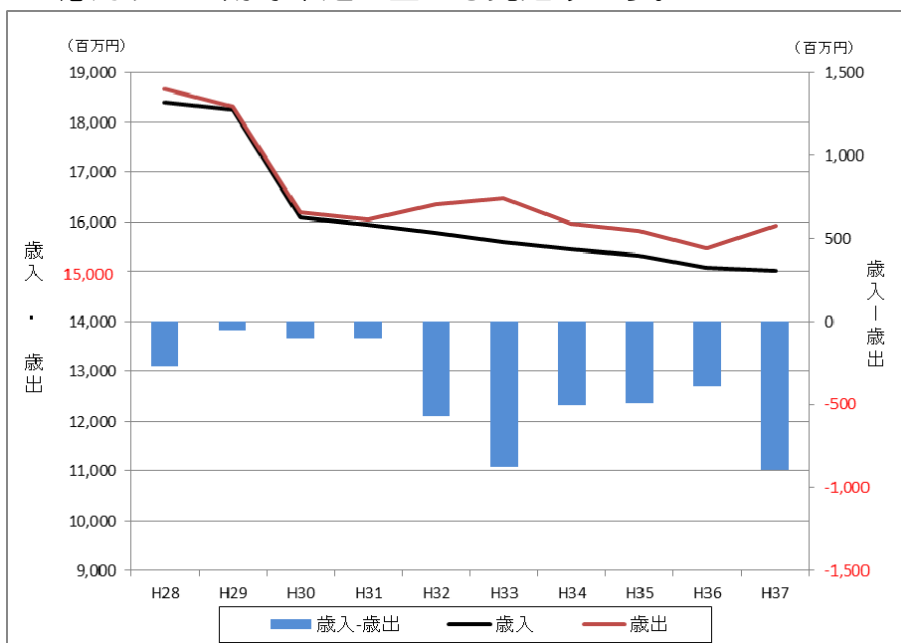
- 平成25年度決算額をもとに、人口の変動を踏まえながら、現行の行財政運営（建設事業を除く。）を続けた場合の財政の見通しは次のとおりです。
- 収支（歳入-歳出）は、おおむね3億から5億円のプラスで推移する見込みです。



3

財政の見通し（4） 建設事業を含んだ場合

- (1)に加えて、今後予定している公共施設等の老朽化対策等の建設事業を見込んだ場合の財政の見通しは次のとおりです。
- 収支（歳入-歳出）は、マイナスとなる見込みです。特に平成32年度以後は、おおむね5億円以上の財源不足が生じる見込みです。



4

行財政 改革の 推進

- 4月に設置した「行政経営改革課」を中心に、事業の総点検を行い、選択と集中を進めます
- 長期的視点をもって、公共施設等の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に進めます